

令和2年度 田原市立神戸小学校学校経営方針

(1) 校訓

「まごころ」 他人のために尽くそうという純粋な気持ち【大辞林 第三版】

(2) 本校の教育目標

心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな実践力のある児童を育成する。

(3) めざす子ども像

一つ一つのことを 真心をもって 実行する子

- 深く考え、判断する子
- 周りの人を大切にする子
- 困難に負けず、粘り強く努力する子

(4) 経営方針

- 教育目標の実現と「めざす子ども像」の具現化を目指し、創意と活力に満ちた教育活動を推進する。
- 地域全体で児童を育てる学校（コミュニティースクール化）への転換に向け、家庭・地域・関係機関とのつながりをより深め、積極的にその教育力を生かす。
- 全教職員の教師力の一層の向上に努める。現職研修の充実を図り、教師が育つ学校をめざす。

(5) 本年度の重点努力目標

スローガン 「よいとこ ひゃっこ 神戸小」

子どものよさに注目し、教職員・地域・家庭のよさを生かしながら子どもを伸ばす。
あたたかく まごころあふれる 神戸小をめざす。

(6) 目標達成のための視点と具体的方策

ア 教職員の質の向上

- ・児童・保護者の思いに寄り添い、多面的に児童を理解する習慣を身に付ける。
- ・指導力の向上、教員としての資質の向上を図るために現職研修の工夫を行う。

イ 家庭・地域・関係機関との連携

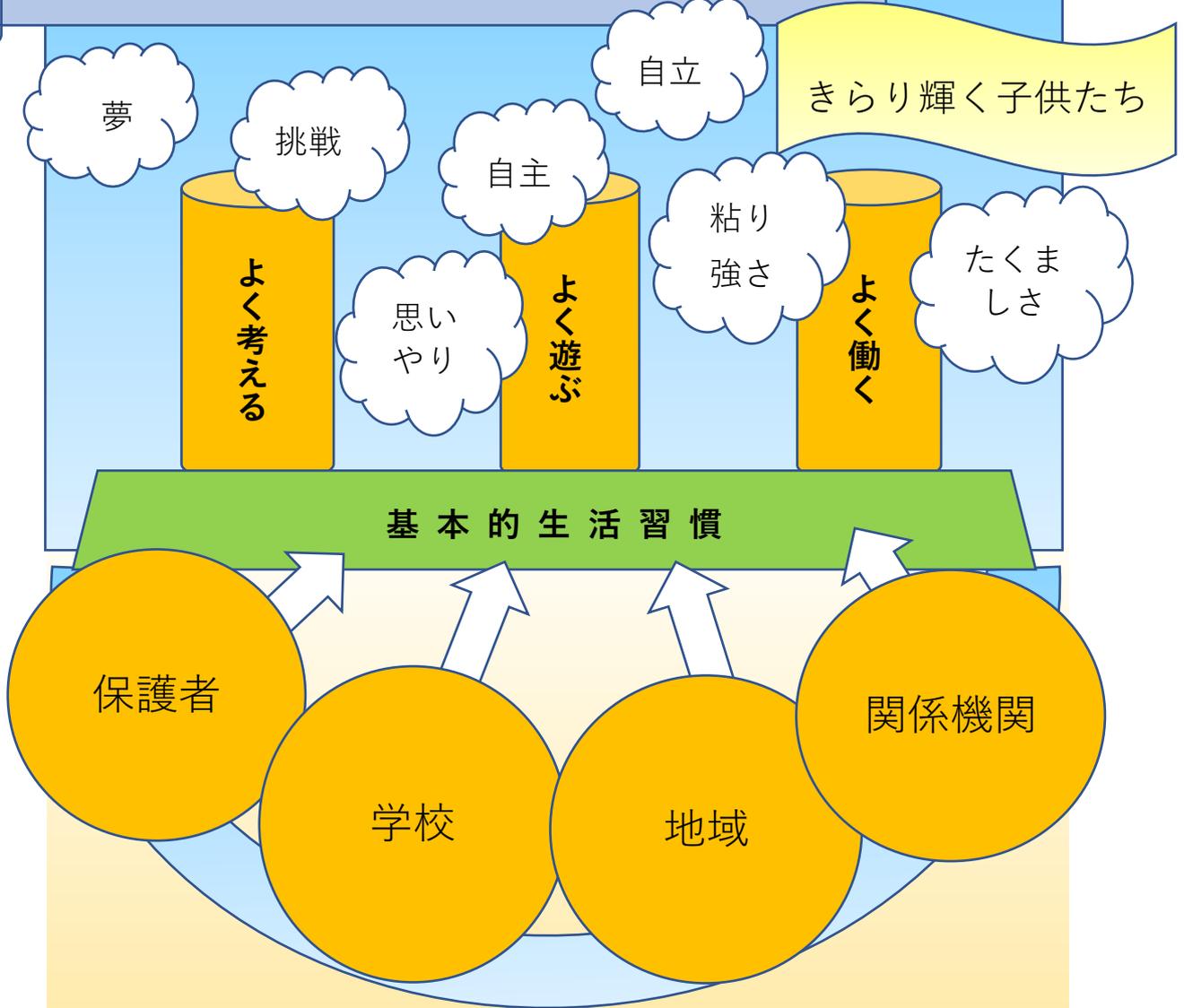
- ・外部人材の活用（ゲストティーチャー、アドバイザー、ボランティア）。
- ・教育活動への協力者（評議員、PTA、コミュニティー等）の学校教育参画体制の整備

ウ 質の高い教育を行うための業務改善

- ・「本当に必要か」「効率的にやれているか」等を視点として、業務の見直しを行う。
- ・若手教員による「業務すっきり委員会」（仮称）の設置。

【神戸小グランドデザイン】

あたたかく まごころ あふれる 神戸小



子どもも 親も 先生も 地域もない 垣根のない神戸ワンチーム
神戸の子は 神戸で育てる
お互いの良さを生かし合う 認め合う地域・学校・家庭
寄り添い助け合い 切磋琢磨で磨き合う
みんなで伸びる みんなが伸びる 子供とともに成長する親・地域・学校
お互いを大切にする 学校を大切にする 神戸が大切 田原が大切
そして、ふるさととなる = ふるさと教育
スローガン

「よいとこ ひゃっこ 神戸小」

学校は楽しいところであらねばならぬが、歯をくいしばり、涙をこらえてがんばるところでもある。

毛崖章平（けがい しょうへい）

長野県で長く中学校の教師をして、中学校の校長を最後に退職されました。長い教師生活の中で多くの失敗と多くの後悔をしてきたそうです。そして、それらを、自分の中で「自戒」のことばとして凝集させてきました。そのことばが、以下の「教師十戒」です。私たちもこのことばを心に入れて、これからの指導にあたっていきたいですね。

教 師 十 戒

～～毛崖章平 著「肩車にのって」より～～

- 1 子どもをこばかにするな。教師は無意識のうちに子どもを目下のものと見てしまう。子どもは一個の人格として対等である。
- 2 規則や権威で、子どもを四方から塞いでしまうな。必ず一方を開けてやれ。さもないと、子どもの心が窒息し、枯渇する。
- 3 近くに来て、自分を取り巻く子たちの、その輪の外にいる子に目を向けてやれ。
- 4 ほめることばも叱ることばも真の「愛語」であれ。愛語は、必ず子どもの心にしみる。

（「愛語」……相手の身を思いやって吐き出すことば）

- 5 暇をつくって、子どもと遊んでやれ。そこに本当の子どもが見えてくる。
- 6 成果を急ぐな。裏切られても、なお信じて待て。教育は根くらべである。
- 7 教師の力以上には、子どもは伸びない。精進を怠るな。
- 8 教師は「清明」の心を失うな。ときには、ほっとする笑いと、安堵の気持ちをおこさせる心やりを忘れるな。不機嫌、無愛想は、子どもの心を暗くする。

（「清明」……自然で明るく、ゆったりすること）

- 9 子どもに素直にあやまれる教師であれ。過ちはこちらにもある。
- 10 外傷は赤チンで治る。教師の与えた心の傷は、どうやって治すつもりか。